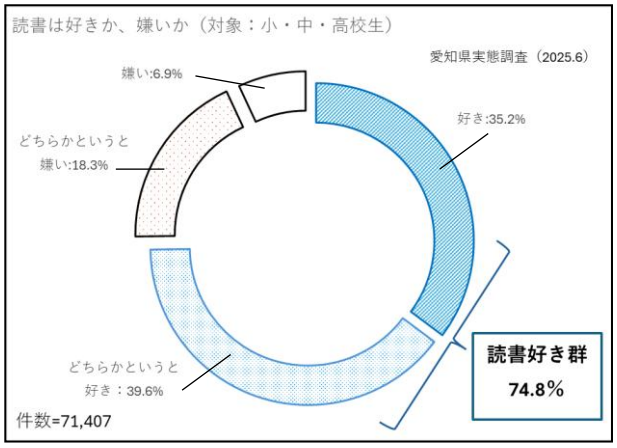
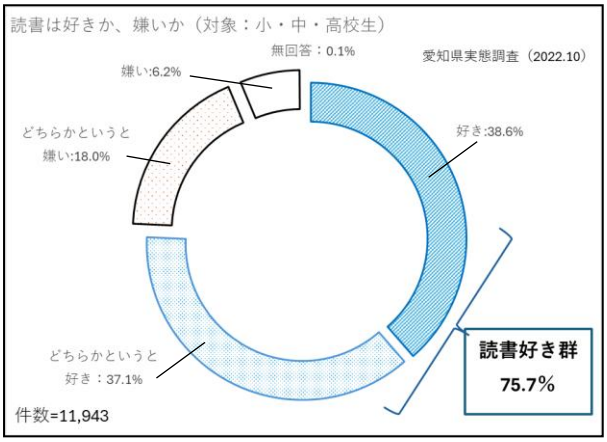
愛知県の読書を取り巻く現状

第四次愛知県子供読書活動推進計画（改定版）が最終年度となることに伴い、「愛知県子供読書活動実態調査※（2025年７月実施。以下「愛知県実態調査」という。）から、子供の読書活動の現状について検証しました。

愛知県実態調査の特徴としては、「あなたは読書が好きですか。それとも嫌いですか。」という質問から始め、児童生徒を読書が「好き」、「どちらかというと好き」と回答した子供（以下「読書好き群」という。）と読書が「嫌い」、「どちらかというと嫌い」と回答した子供（以下「読書嫌い群」という。）とに分類し、同一の質問項目に回答をすることで、それぞれの傾向を明らかにしました。これは、第四次推進計画の改定時に実施した調査（2022年11月実施。）と共通で、経年比較が可能になっています。その結果については次のとおりです。

※愛知県子供読書活動実態調査については、Ｐ７参照。



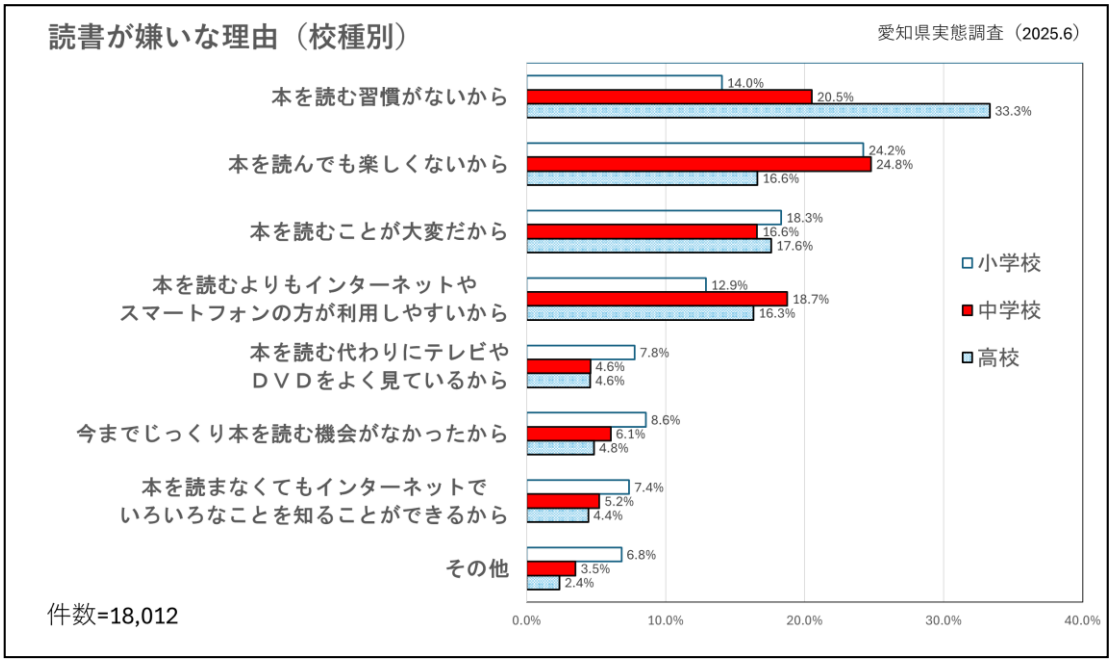


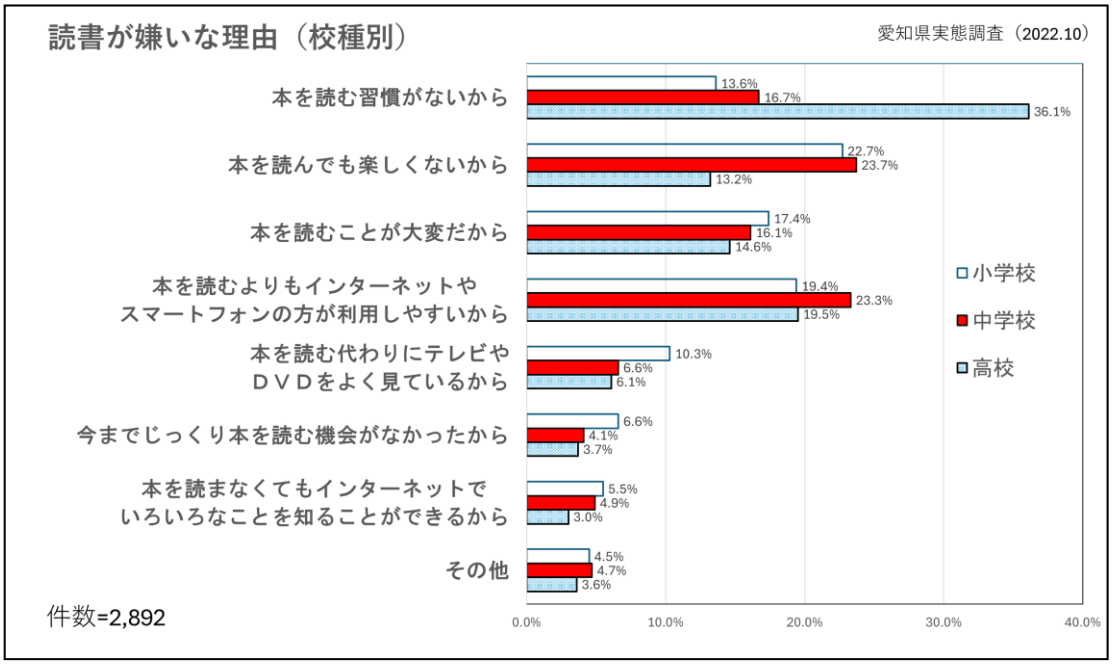
１　読書が「好き」か「嫌い」か

読書好き群の割合は、小学生で 79.4%、中学生で 69.2%、高校生で 68.9%であり、学校段階が進むにつれ、読書好き群の割合は低下し、読書嫌い群の割合が上昇していきます。しかし、小・中・高を合わせた子供全体で見ると約４分の３の子供が読書好き群に属します。これは３年前と変わらない傾向です。

(1) 読書が「嫌い」な理由

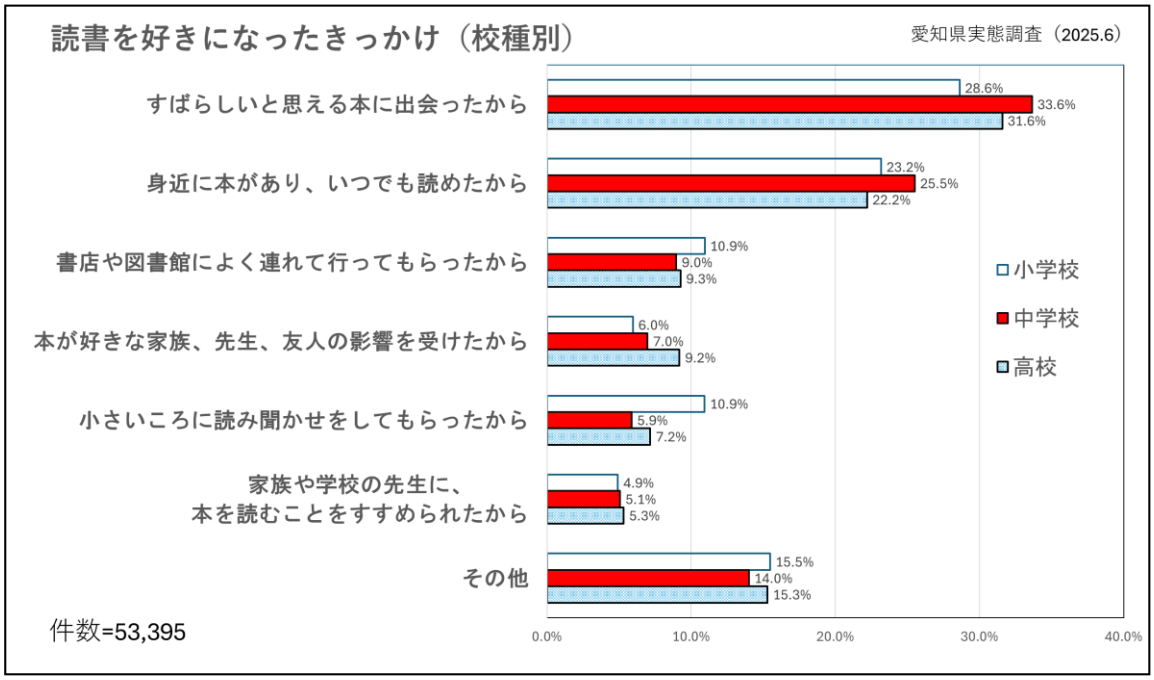
読書が「嫌い」、「どちらかというと嫌い」の理由として、小学生、中学生では「本を読んでも楽しくないから(小 24.2%、中 24.8%)」、高校生では「本を読む習慣がないから(33.3%)」が最も割合が高い回答でした。これは３年前の調査とほぼ同じ傾向です。一方、子供全体で見ると、３年前より「本を読むよりもインターネットやスマートフォンの方が利用しやすいから」や「本を読む代わりにテレビやＤＶＤをよく見ているから」という回答がすべての学校段階で低下し、「今までじっくり本を読む機会がなかったから」という回答がすべての学校段階でわずかに上昇しているのも特徴です。

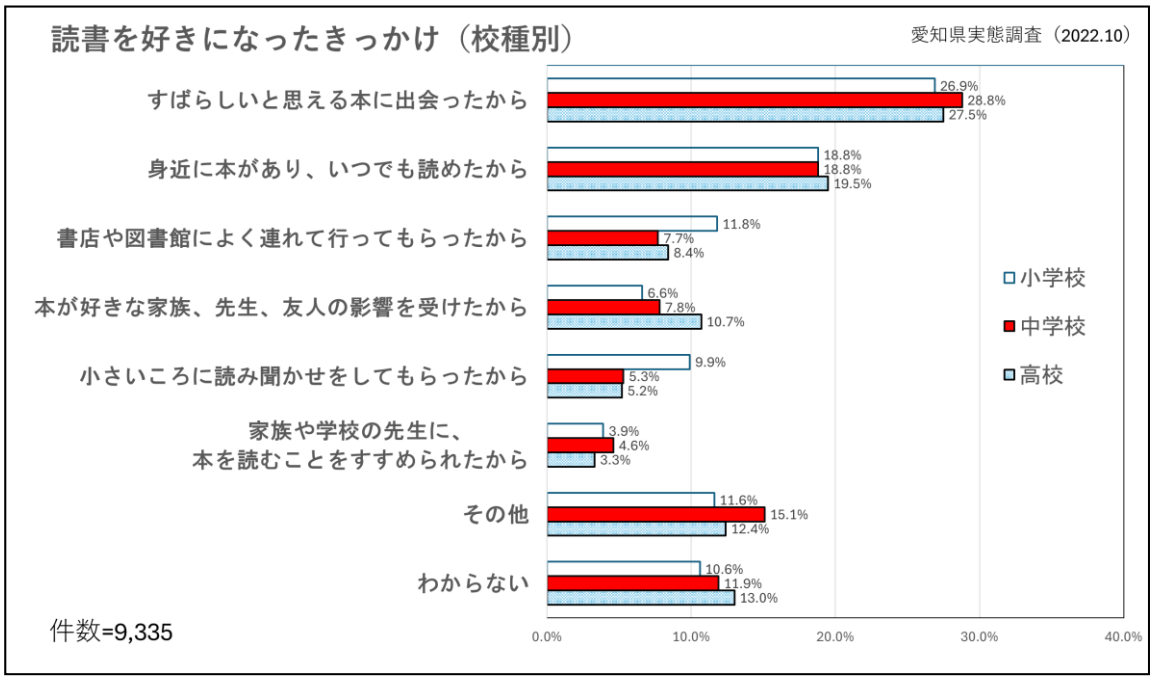




(2) 読書を「好き」になったきっかけ

読書が「好き」、「どちらかというと好き」になったきっかけについては、小学生、中学生、高校生とも「すばらしいと思える本に出会ったから」の割合が最も高くなっています(小 28.6%、中 33.6%、高 31.6%)。また、「身近に本があり、いつでも読めたから」が次に高くなっています(小 23.2%、中 25.5%、高 22.2%)。これらの理由は、３年前よりすべての学校段階で上昇しているのも特徴です。また、「小さいころに読み聞かせをしてもらったから」という理由もいずれの学校段階においても、３年前よりも上昇していました。



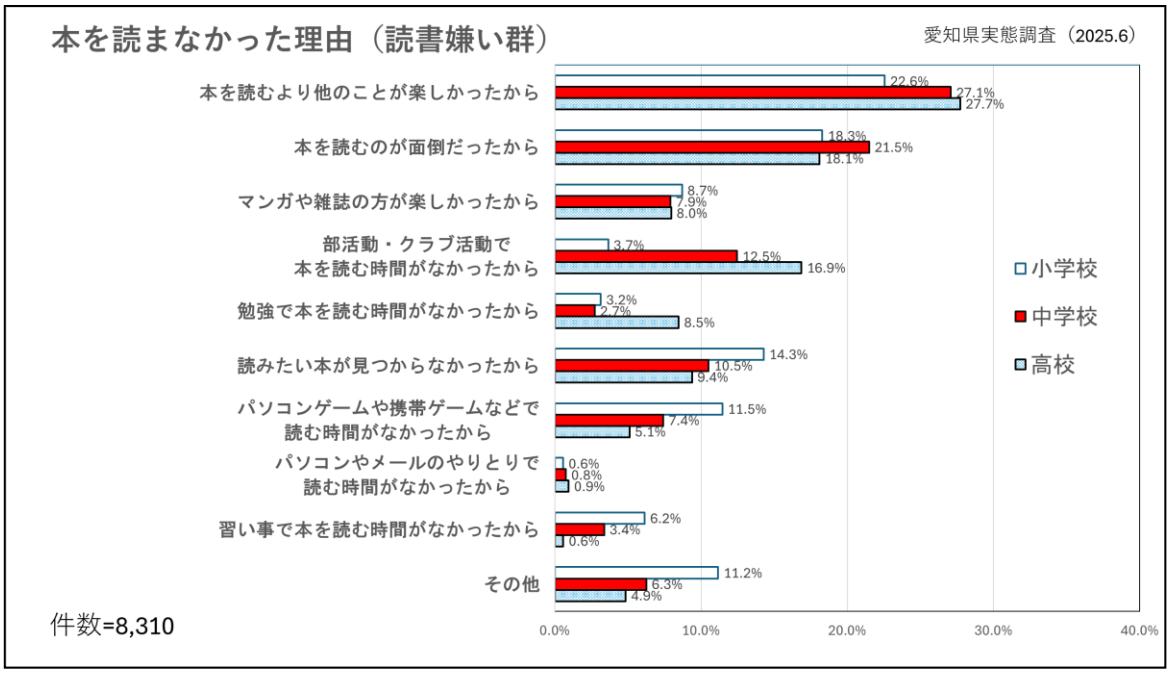


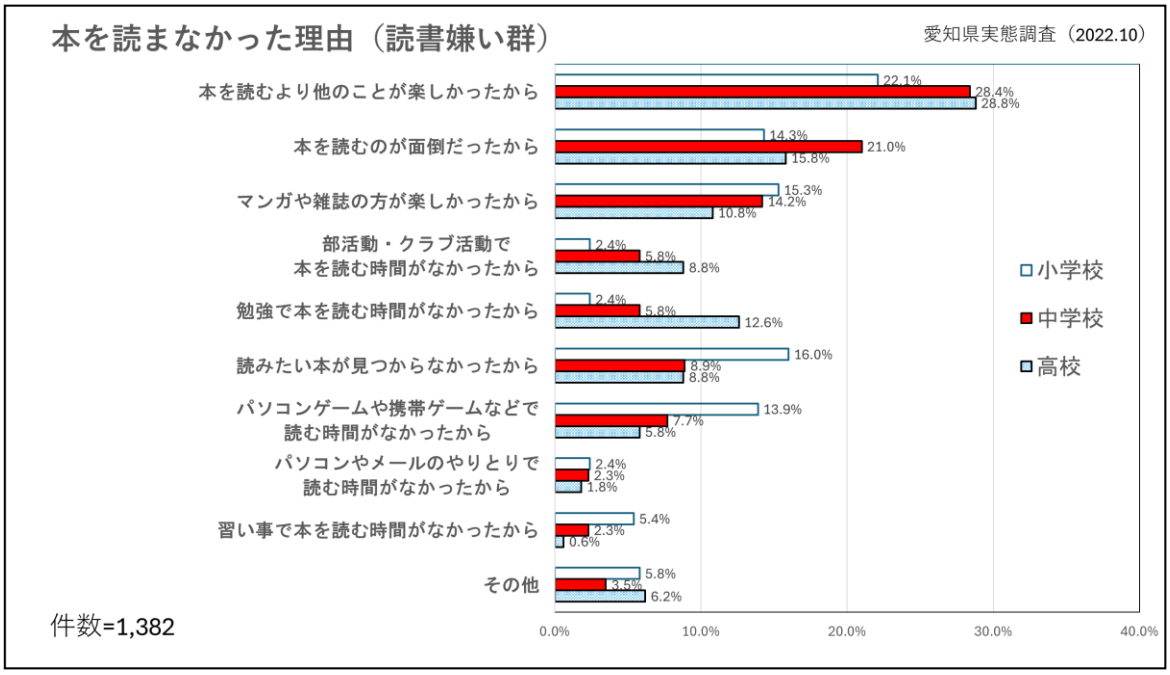
※2025 年は「わからない」という選択肢を設定しませんでした。

２　１か月に１冊も本を読まなかった理由

(1)　読書嫌い群の分析

「本を読むより他のことが楽しかったから」がいずれの学校段階でも最も割合が高いという傾向は３年前と同様です。一方で、「マンガや雑誌の方が楽しかったから」がすべての学校段階で低下し（小 15.3%→8.7%、中 14.2%→7.9%、高 10.8%→8.0%）、「部活動・クラブ活動で本を読む時間がなかったから」が中学生や高校生で大きく上昇しています(中 5.8%→12.5%、高 8.8%→16.9%)。

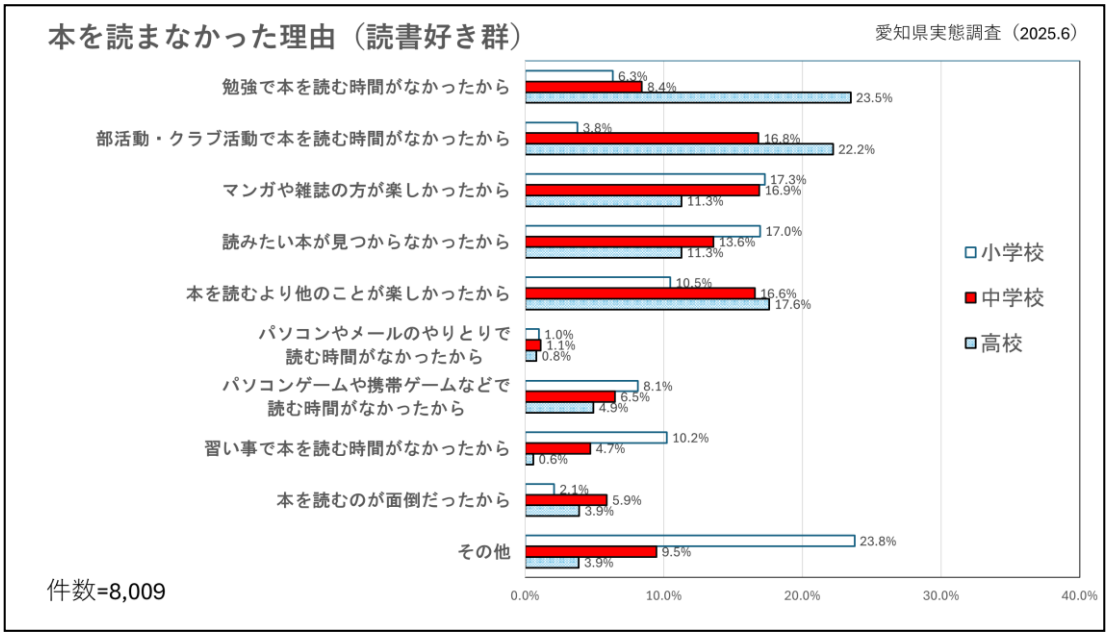


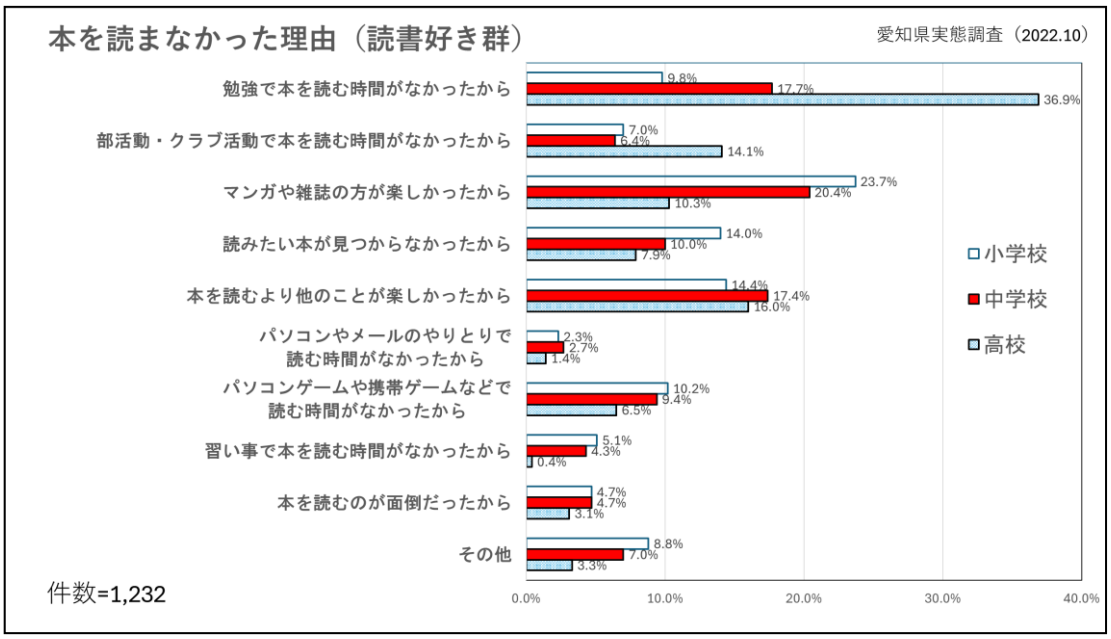


(2) 読書好き群の分析

小学生、中学生では、「マンガや雑誌の方が楽しかったから（小 17.3%、中 16.9%）」、高校生では「勉強で本を読む時間がなかったから（23.5%）」が最も割合が高くなっていますが、いずれも３年前と比較して低下しています。

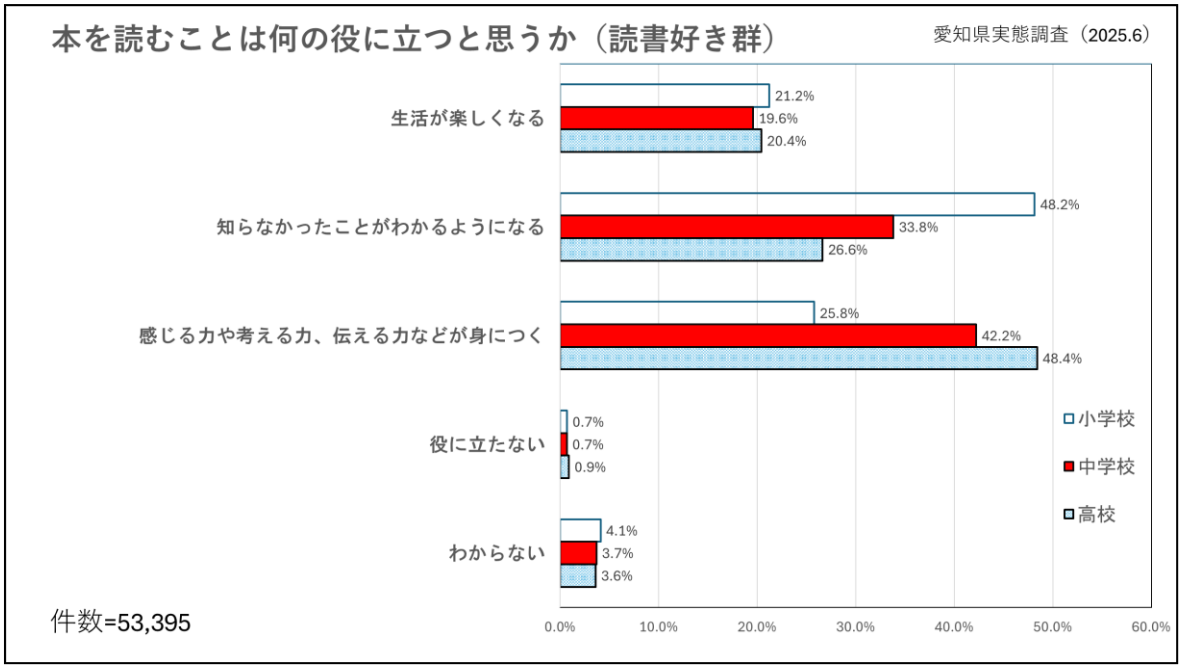
３年前と比較して、「部活動・クラブ活動で本を読む時間がなかったから」が中学生や高校生で大きく上昇しているのは、読書嫌い群と同様の傾向となっています。（中 6.4%→16.8%、高 14.1%→22.2%）。これは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が５類感染症へ移行したことで、感染症対策で制限されていた部活動・クラブ活動の活動時間が緩和された結果である可能性があります。

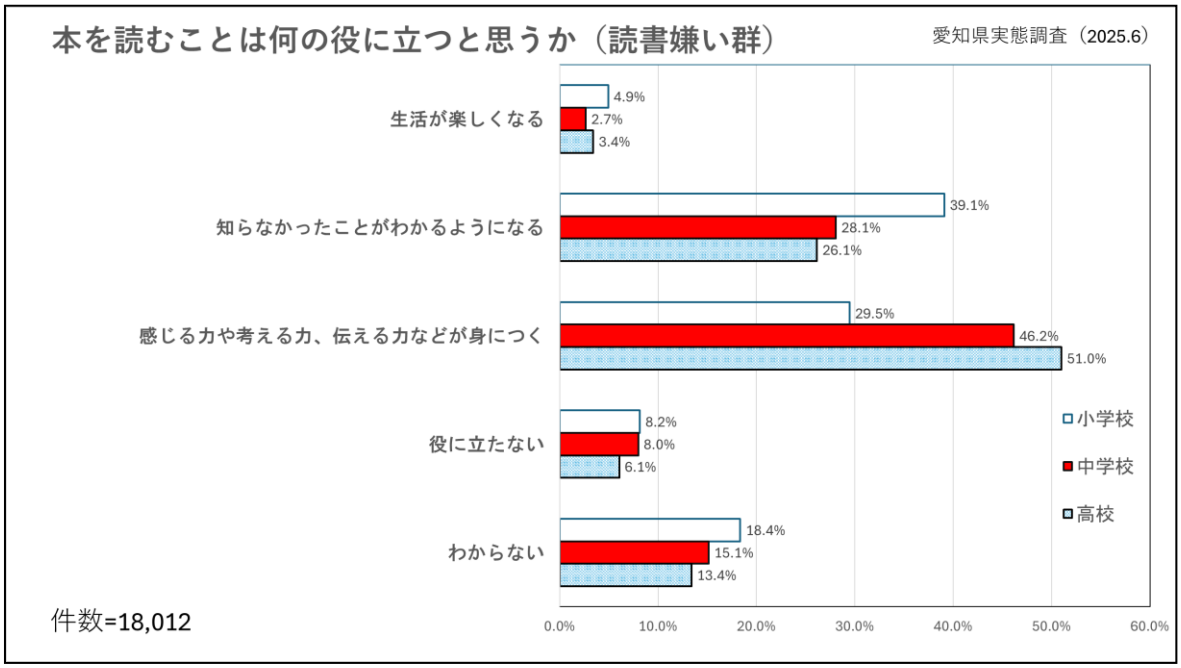




３　読書に対する意識の分析

「本を読むことは何の役に立つと思いますか。」という質問に対して、読書好き群と読書嫌い群の結果を比較すると、読書好き群は、「生活が楽しくなる」と答えている子供の割合が顕著に高くなっていました。一方で、「感じる力や考える力、伝える力などが身につく」は読書嫌い群の方がすべての学校段階で読書好き群よりも高くなっていました。このことから、読書好き群は、読書に対し、学習面などにおける効果に加え、精神的な充実感を得ている傾向にあることが考えられます。





※愛知県子供読書活動実態調査について（２０２５年度調査）

１　目的

県内における子供の読書活動の現状を把握し、主要な取組の進捗状況を点検する中で第四次愛知県子供読書活動推進計画（改定版）を確実に推進し、本県における子供の読書活動の一層の充実を図る。

２　調査対象

名古屋市立を除く県内全ての小学校（４～６年生）
名古屋市立を除く県内全ての中学校（１～３年生）
名古屋市立を除く県内全ての高等学校（１～３年生）
※小学校には、義務教育学校前期課程を含む。
※中学校には、義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程を含む。（夜間中学は除く。）
※高等学校には、中等教育学校後期課程及び高等専門学校を含む。（定時制・通信制は除く。）

３　回答方法

学校において、各学年から１クラスずつ抽出し、１人１台タブレット端末等で回答。

４　回答期間

令和７年７月１日（火）～令和７年７月 18 日（金）
※不読率については、令和７年６月の１か月間の状況を調査。

５　有効回答数　合計　71,407 人

（小学校：39,304 人、中学校：20,432 人、高等学校：11,671 人）